

『ふるさと甚目寺「かかわる」「つたえる」「つながる」

ー E S D の視点に立った教育活動ー

あま市立甚目寺小学校

1 目的

甚目寺小学校では、学校教育目標「善く生きる子」にせまるために、平成22年度からE S Dに取り組んでいます。E S Dを持続可能な社会を築くための人づくりととらえ、人権教育の基本とされる「自他の人権を尊重する意識を磨くこと」「コミュニケーションの能力を高めること」「自己肯定感を高めること」という要素を盛り込み、『ふるさと甚目寺 ー「かかわる」「つたえる」「つながる」ー』をテーマに、人と人とのつながり、人と地域とのつながりを大切に教育活動を進めています。

2 内容

(1) 人とつながる活動

ア 人間関係づくりのための体験的活動

自分の気持ちの伝え方を学び、人と接する態度の向上を図るためのハッピートークトレーニング、自分の意見や気持ちをその場にふさわしい表現でし、相手との良好な関係を築くためのアサーショントレーニングに取り組んでいます。このような取組により、自尊感情が高まったり、相手のことを思いやった表現ができたりする、自分も相手も大切にすることができる子どもたちを育てています。また、Q U調査を実施して、子どもの学校生活の様子を確認し教育相談に役立てています。

イ 甚小まつりの活動

甚小まつりは、本校で20年以上続いており、子どもたちが楽しみにしている行事の一つです。学級ごとにお店を出し、全校でふれあいながら楽しくお店をめぐっています。保護者の方もたくさん参加され、子どもたちは、多くの人とふれあい、交流を深めることができました。

ウ 心を育てる活動

11月に、児童文学「波の会」のみなさんをお迎えして、ストーリーテリングをしていただきました。この活動は甚小ブックママと連携して行っており、学年に応じたお話を厳選し、語りかけていただいています。お話の世界に引き込まれ、豊かな時間を過ごすことができました。

(2) 地域とつながる活動（総合学習）

甚目寺小学校では、総合的な学習の時間を中心に各教科・道徳・特別活動などに関連づけながら、地域を舞台に学習を進めています。各学年、地域の様々な方と交流し、出前授業を受けたり、学んだことを発信したりする活動を行っています。11月には学習のまとめとして、「総合学習発表会」を開催し、学んだことを地域の方や家族に発表しました。どの学年も自分たちの思いが伝わるように工夫し、充実した発表会となりました。

(3) 世界とつながる活動

ア エコキャップ・アルミ缶回収運動

ペットボトルのキャップやアルミ缶を集め、リサイクルすることにより、発展途上国の子どもたちにワクチンを贈る運動に参加しています。児童会を中心に活動を進めています。

イ 世界寺子屋運動

ユネスコが進めている世界寺子屋運動に参加しています。

【ユネスコスクールで発表する児童】

みんなに世界の現状を知らせたり、書き損じはがき等や募金を集めて協会へ贈り、教育施設の建設や運営に役立てたりしています。



ウ ユネスコスクールの交流

ユネスコスクール加盟校どうしの交流会に参加しました。他校の取組を知ることで、地域を見直したり今後の活動に見通しをもったりする機会になりました。

エ S D G s を意識した教育活動

昨年度から始めたS D G s（持続可能な開発目標）を意識した取組を継続しています。子どもたちは自分たちの活動が甚目寺の現在や未来だけでなく、世界ともつながっていることを意識しながら、様々な問題や課題等を考えることができるようになりました。

（４）教師の力量向上

少経験者に対し、講師を招いて算数の指導法を学ぶ機会を設けています。指導案作成から授業実践、課題への取組まで、きめ細かな指導をしていただき、若手職員の力量向上につながりました。

（５）環境整備

タマムシなど、多種多様な生き物が見られる豊かな自然環境を維持し、さらによりよくしていくために、花壇やグリーンカーテンなどの環境整備を行っています。本年度も琉球朝顔のグリーンカーテンを整備し、美しい花を楽しみました。

（６）コミュニティスクール

本校にはスクールガード、ブックママ、おやじの会、学校支援ボランティアというボランティア組織があります。スクールガードは登下校の見守り、ブックママは図書室の整備や子どもたちへの本の読み聞かせ、おやじの会は子どもたちが参加できる様々なイベントの企画・運営をしています。また、学校支援ボランティアは、学校から依頼したことや、ボランティアが子どもたちのために取り組みたいことなどを幅広く行い、除草作業、樹木のせん定、野菜づくり、遊具のペンキ塗り、校内掲示、校外学習付添補助、プール監視補助、調理実習補助などに取り組んでいます。

各組織はこれまで独自に活動を進めてきました。しかし、コミュニティスクールが始まったことをきっかけに、P T Aとともに横の連携を築き、互いに協力して学校・子どもたちを支える取組や地域とのつながりを強化する取組を開始しました。運動会のテント設置や、おやじの会主催の餅つき大会の運営には、様々なボランティアが参加しました。



【テント設置をするボランティア】

3 評価

- （１）出前授業や見学・体験活動といった本物を体験させる機会を多くすることによって、子どもたちはすばらしい発見や気づきをします。この発見や気づきにより、学習する対象への興味・関心をさらに高め、自ら学んだり行動したりする子どもたちが増えてきました。
- （２）地域に関した様々な取組をすることにより、人と人とのつながり、人と地域とのつながりを意識するようになり、地域への愛着が深まりました。またS D G sを意識させることで、自分たちが地域・そして世界につながっていることを理解し、これまでより一歩踏み込んだ考えをもつ児童が育ってきました。
- （３）コミュニティスクールにおいて、ボランティアを核とする地域との連携を深めたことにより、学校に協力いただける人材が広がり、子どもたちや学校の教育活動にとって大きな力となりました。

4 課題

新学習指導要領で求められる子どもたちを育てるために、本校のE S Dを核とした教育活動は、まさに最適であると考えます。しかし長く続けてきたことで、新鮮さが失われつつあることも事実です。今後も内容の見直しを図りながら、さらに充実したものにしていきます。そして子どもたちが、多くの方に支えられながら育っていることを意識し、自らも地域のために、さらには社会のために行動することができる大人へと成長することができるよう教育活動を進めていきます。